

令和 6 年 5 月 7 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13960

研究課題名（和文）中国の介護市場に進出した日本式介護の質評価指標の開発および実証研究

研究課題名（英文）Development and empirical study of quality evaluation indicators for Japanese-style elderly care entering the Chinese care market

研究代表者

郭芳（Guo, Fang）

同志社大学・社会学部・助教

研究者番号：70755389

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、中国の介護市場に進出した日本式介護の評価指標を開発し、日本式介護の特徴を明らかにした。介護サービスのアウトカムに重点を置く評価指標を開発したが、新型コロナウイルス感染拡大による中国政府の厳格な隔離政策の実施のため、中国の施設での検証が実現できなかった。その代替方法として、日本人責任者へのインタビューを通じて、中国で展開したい自立支援の日本式介護について、どのように取り組んでいるかを明確にした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的独自性は、国際的に共通するオリジナルな評価測定指標を開発することによって、国際的視点を用いて日本式介護を評価することである。日本式介護の特徴が視覚化されることによって、施設の利用者獲得や意義と価値の共有の課題を克服することができる。その結果として、中国の高齢介護問題の解決に貢献できると共に、日本の介護事業者の国際事業化推進に対して情報提供ができる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we developed evaluation indicators for Japanese-style elderly care entering the Chinese care market and elucidated its characteristics. While we focused on outcome-based evaluation indicators, the strict isolation policies implemented by the Chinese government due to the COVID-19 pandemic prevented verification in Chinese facilities. As an alternative, we clarified how Japanese-style elderly care, emphasizing independent support, is being approached in China through interviews with Japanese managers.

研究分野：社会福祉学 高齢者福祉

キーワード：日本式介護 評価指標 可視化 自立支援

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

急速な高齢化の進展により、中国は国内および外国の民間資本を導入し、市場サービスの利用を推進している。そこで、日本介護事業者は中国に進出し、介護サービスの現地化を進めている。しかし、文化や生活習慣の異なる中国に進出した日本式介護は、その意義や価値の共有が困難になり、その結果、利用者獲得に苦慮している。

一方、中国における福祉の市場化が展開され、全国統一の介護保険制度の規制がないなか、中国の福祉市場は自由市場に近い。しかし、こうした市場の活用は、利潤最大化の競争を生み、サービスの質を犠牲にし、被介護者の生活の質を著しく毀損するとの指摘は多い。そのため、中国政府は一定のサービスの質を担保する介護サービス市場をどう設計すべきか、供給されるサービスの質を測る指標をどのように設定すべきか、サービスの質めぐって多くの課題が残っている。また、日本式介護は理念である自立支援を維持し、中国の文化・習慣に合わせて現地化が進んでいるが、日本人責任者は、中国で展開したい自立支援の日本式介護について、どのように取り組んでいるかを客観的に説明する必要がある。こうした問いを解明するためには、中国の介護市場において展開している日本式介護の質を客観的に評価することが不可欠である。しかし問題点は、介護サービスの質を測る指標がないことである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現地サービスとの差別化を図るために日本式介護の特徴を実証的に示すことである。具体的には、まず国内外の介護サービスの質評価の指標と理論を検討し、国際的に共通する評価指標を開発することである。さらに開発した指標を用いて実証することである。

3. 研究の方法

研究方法は、評価指標の開発について、文献調査を用いる。Donabedian(1988)が提唱した「構造」「プロセス」「アウトカム」の3つの枠組みを検討し、介護サービスのアウトカムに重点を置く評価指標を開発した。その後、指標の妥当性を検証するため、日本の介護施設の利用者を対象にアンケート調査を実施した。評価指標を開発したものの、新型コロナウイルスの影響で中国の施設での検証ができなかったため、日本式介護の特徴を明確にするために、代わりに日本人責任者へのインタビューを行った。

4. 研究成果

(1) 利用者の介護サービスへの満足度を測る指標の開発と検証

介護サービスの質評価の指標と理論を検討し、介護サービスのアウトカムに焦点を当てた評価の必要性がある。検討した利用者の介護サービスへの満足度を測る指標について、その妥当性を確認するために、A県の介護サービス事業所(23カ所)のサービス利用者150名に対して構造化アンケート調査を行った。調査内容は、「基本属性」、「生活満足度(環境、食事、介護職員、ケア、社会参加)」、「幸福度」、「QOL」、「人生満足度」で構成される。分析ソフト(SPSS24)を用いて分析した結果、介護サービス利用者の社会関係資本と満足度は有意な関連性が示された。社会関係資本が十分であると認識している利用者ほど、生活満足度および人生満足度が高いことが明らかとなった。このことから、利用者の社会関係を断ち切らない介護保険サービスの提供が求められるとともに、地域に密着した施設づくりの重要性が考察された。また、日本の介護施設の利用者を対象としたアンケート調査を通して、利用者評価に用いる調査項目の妥当性と信頼性も検証された。妥当性が確認できた評価項目は、中国に進出した日本介護事業者が利用者評価調査のアンケート項目設計に寄与する。

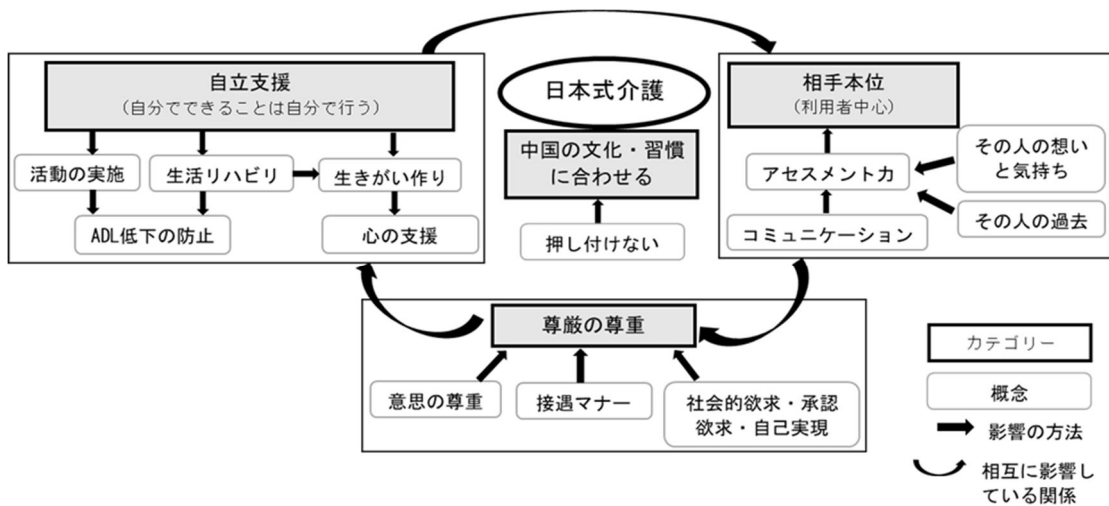
(2) 日本人責任者が展開したい自立支援の日本式介護の内容

日本人責任者は、中国で日本式介護の展開において重要視したい点について、「自立支援」というキーワードが浮かび上がった。自立支援は非常に抽象的な概念であり、具体的にどのようなサービスを指すのかについて、日本人責任者の語りを通じて客観的に説明したいと考えた。そこで、日本人責任者に「展開したい自立支援の日本式介護はどのようなサービスか」「このようなサービスの提供において大切にしていることは何か」についてインタビュー調査を行った。

その結果、日本人責任者は日本式介護の展開において、【中国の文化・習慣に合わせる】ことを意識し、日本の介護を押しつけないようにしている。日本人責任者は、展開したい日本式介護の特徴として、「自分できることは自分で行う」を意味する【自立支援】と「利用者中心」の【相手本位】、利用者の【尊厳の尊重】が挙げられた。【自立支援】は、その方の何かを支える、何かを実現するための手助けを意味し、その実現には、活動の実施、生活リハビリが欠かせず、その目的にはADLの低下の防止と生きがい作りがある。利用者の身体的な支援だけでなく心の支援にもつながる。【相手本位】は、家族ではなく、入居者本人のニーズを重視し、その人が自分らしい生活を築くことを支援する。アセスメント力は、相手本位のアプローチを実現する上で欠かせない要素であり、入居者の情報に基づき、状況やニーズを評価し、適切な支援計画を測定する。そのため、その人の想いと気持ちやその人の過去などの情報を収集するには、コミュニケーションが重要な手段である。【尊厳の尊重】は入居者の意

思の尊重 と深く結びついている。入居者が自分の意思を尊重されることは、彼らの尊厳を保護し、価値を認めることである。社会的欲求・承認の欲求・自己実現などの欲求は施設入居者も例外ではなく、必要としている。入居者の【尊厳の尊重】は彼らの 意思の尊重 から始まり、彼らの欲求を満たすために重要である。 接遇マナー は、これらの要素を補完し、入居者が満足できる環境を提供する。

図1 日本人責任者が展開したい日本式介護の特徴



(3) 中国人介護人材が日本の介護をどれだけ理解できるかについて

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、海外でのフィールドワークができなくなった期間に、日本国内で以下の研究を行った。

今までの研究では、日本の介護事業者は中国人介護人材を現地採用し、「日本式介護」サービス展開において、職員の姿勢が整えられていないため、維持したい日本の強みがなかなか浸透させられないことが、事業者を悩ませている課題であることが明らかになった。日本の事業者が直面している課題、特に職員との交流の障害による課題の原因は、中国人介護人材の介護観による影響ではないかと思われる。そこで、中国の介護観を持つ中国人介護人材は日本の介護施設で働く場合、どのように「日本の介護」を理解しているかを明らかにしたく、日本に来ている介護技能実習、特定技能、留学介護の在留資格を持つ中国人介護人材にインタビュー調査を行った。

その結果、来日した中国人介護人材が理解している日本の介護の特徴として、「尊厳の保持」、「自立支援」、「利用者本位」、「ケアプラン」、「きめ細かなサービス」、「働き方」が挙げられた。中国人介護人材が理解している日本の介護の特徴は日本の介護保険制度を貫く理念や考え方と一致した。つまり、中国人介護人材が持っている介護観は日本の介護の理念や考え方への正しい理解に影響していないことがわかった。「ケアプラン」、「きめ細かなサービス」も「日本の介護サービスメニューは豊富」や「介護予防や高齢者の状態により異なるサービスが揃っている」などの特徴への理解である。中国人介護労働者はどのようにしてここまで日本の介護の特徴を理解できたか。一つ目は、外国人介護労働者の受入れの各種制度において、来日前に外国人介護労働者が満たすべき一定の技能水準が決められているからである。一緒に働く日本人職員から影響を受けたりすることも一つの要因と考えられる。三つ目は、中国の介護と日本の介護を比較して、異なる部分が日本の介護の特徴であると理解したと推測される。

この結果から、中国人介護人材が理解している日本の介護の特徴は日本の介護保険制度を貫く理念や考え方と一致した。つまり、中国人介護人材が持っている介護観は日本の介護の理念や考え方への正しい理解に影響していないことがわかった。

中国人介護人材が日本にきて介護を行う場合、所属する組織は「日本の介護施設」であり、提供するサービスは「日本の介護」であり、利用者は「日本人高齢者」である。日本の介護事業者が中国人職員を雇って「日本式介護」を展開する際には、組織の経営者は日本の介護事業者であり、提供するサービスは日本の介護を基盤とするものとしている。利用者が「日本人高齢者」の場合、中国人介護人材が現場に入る前に、日本の施設の概要や日本人高齢者の生活習慣や介護内容などの状況を明らかにし、提供すべきサービスはどこが異なるかを明確にする必要がある。一方、利用者が「中国人高齢者」になると、異文化理解の必要がない。では、中国に進出した日本の介護事業者に悩ませている「職員の姿勢」課題の原因は一体何だろう。中国人介護職員が理解している「日本式介護」はどのようなものか、また、日本式介護施設で働く中国人職員の認識に影響を与える要素は何だろう。これらは今後の課題となる。

<引用文献>

Donabedian A.(1988) "The quality of care: How can it be assessed", JAMA, Vol1260, pp23-30

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 郭 芳	4. 巻 130
2. 論文標題 高齢者福祉サービス供給の発展経路とその特徴：歴史的展開から考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 評論・社会科学	6. 最初と最後の頁 23～43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/pa.2019.0000000399	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 郭 芳、鄭 熙聖、高橋 順一	4. 巻 135
2. 論文標題 介護サービス利用者の社会関係資本と生活満足度および人生満足度との関連	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 評論・社会科学	6. 最初と最後の頁 1～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00027845	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 郭芳	4. 巻 137
2. 論文標題 中国の高齢者福祉とサービス供給をめぐる動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 104-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 郭 芳	4. 巻 145
2. 論文標題 生活者としての中国人介護労働者の実態：インタビュー調査を通して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 評論・社会科学	6. 最初と最後の頁 39～57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00029693	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 郭芳
2. 発表標題 日本の地域包括ケアを考える 自助と互助の視点を中心に
3. 学会等名 第15回社会保障国際論壇（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 郭芳
2. 発表標題 日本の社会福祉サービス供給 高齢者福祉サービスを例にして（中国語）
3. 学会等名 第11回中国社会福祉学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 郭芳
2. 発表標題 中国における日本式介護サービスの展開
3. 学会等名 第17回社会保障国際論壇（国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 埋橋 孝文	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 284
3. 書名 どうする日本の福祉政策	

1. 著者名 沈潔	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中国労働社会保障出版社	5. 総ページ数 274
3. 書名 日本の社会福祉（《日本社会福利》）	

1. 著者名 渡辺 長、小島賢久、米田 裕香、中込 節子、糠谷 和弘、渡辺幸倫、坂内 泰子、河森 正人、郭 芳、後藤美恵子、細田 尚美、柳澤 沙也子、岩田 研二	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 304
3. 書名 外国人介護士と働くための異文化理解	

1. 著者名 埋橋 孝文	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 福祉政策研究入門 政策評価と指標 第1巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------